

< 構造形式と空間構成 >

敷地は、軽井沢の中でも特に湿度の高い地域に位置している。快適な室内環境と建物の耐久性向上のために、1階をRC造、2階を木造とした。



道路に面する北側ファサード

建物の南側に、2層分の高さを持つ大きなリビングを設けた。
1階部分の壁はコンクリート打放し、2階部分の壁と天井は杉板目透し貼による仕上げとした。また、杉板特有の赤身の粗野な表情を和らげるために、薄いグレーの塗装を施した。

外壁は全て、唐松横羽目板によって仕上げたため、コンクリートは外部には露出してない。また、セパレータを利用した外断熱工法を採用した。

外壁：t=15 唐松横羽目
縦胴縁(通気層) 25×45 @450
横胴縁 45×55 @450
t=50 断熱材



リビング壁面

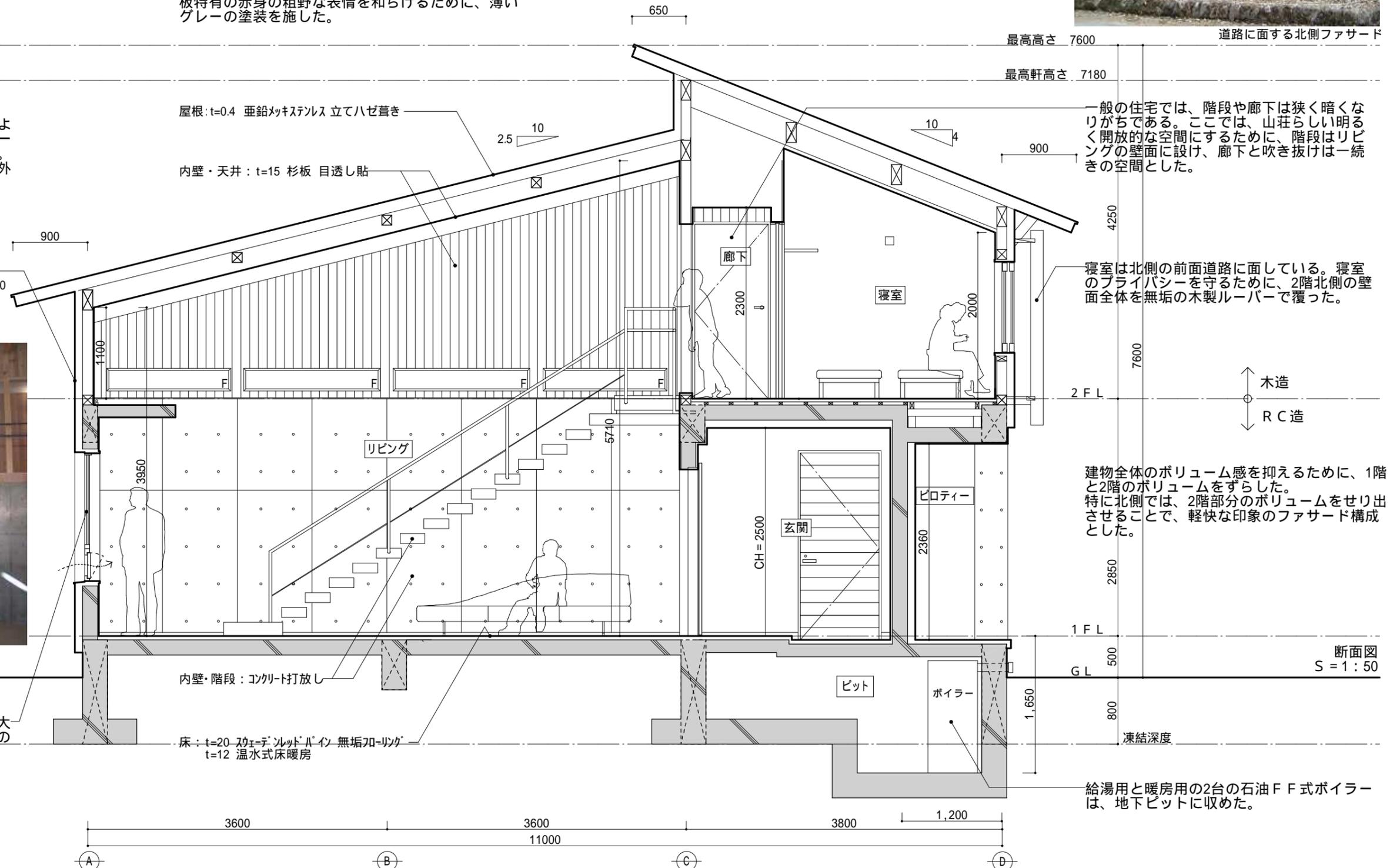
南側の雑木林を眺めるための大きな嵌殺し窓。また、通気用の内倒し開口を下部に設けた。

屋根：t=0.4 亜鉛メッキステンレス 立てハゼ葺き

内壁・天井：t=15 杉板 目透し貼

内壁・階段：コンクリート打放し

床：t=20 スクエアドルットハイソ 無垢フローリング
t=12 温水式床暖房



一般の住宅では、階段や廊下は狭く暗くなりがちである。ここでは、山荘らしい明るく開放的な空間にするために、階段はリビングの壁面に設け、廊下と吹き抜けは一続きの空間とした。

寝室は北側の前面道路に面している。寝室のプライバシーを守るために、2階北側の壁面全体を無垢の木製ルーバーで覆った。

建物全体のボリューム感を抑えるために、1階と2階のボリュームをずらした。特に北側では、2階部分のボリュームをせり出させることで、軽快な印象のファサード構成とした。

給湯用と暖房用の2台の石油FF式ボイラーは、地下ピットに収めた。